



「わら細工伝統の技」

なす たけし
那須 猛 さん

宇治

子どもの頃から、お正月飾りを作るお父さんの姿を見ていたという那須さん。10年前に買ったお正月飾りがとても美しかったので、どうやってできているんだろうとバラして研究したことがきっかけで、自宅で作りはじめました。今では注文が数多く入るほどの腕前で、大きさにもよりますが、1日8個程のペースでコツコツと作っています。土壁の倉庫が作業場です。

お正月飾りや、締め縄の他にも、物を運ぶ“だつ”や“こも”や米俵も作ることができます。今では米俵を作る人が少なく、広島県尾道市からお祭り用に欲しいという注文が入ってきたそうです。

【稲わらの作り方】

1. 稲は2回に分けて刈る。穂の出る前に刈ったものはしめ縄に、穂が出て伸びてから刈った物はお飾りにする。
2. 半日天日干しをする。
3. 2m四方の鉄板でできた乾燥機に入れて、50～60度でさらに2日半乾燥させる。折れるくらいにしっかり乾かすと、1年くらい経っても色が変わらない。乾燥が不十分だとカビがはえてしまう。



地域の学校でも「お正月飾り」を教えていたそうです。



こも
(むしろ)



だつ
(天秤棒に掛けるから製のカゴ)



米俵